

2020年 滋賀県人権教育研究大会（甲賀・湖南大会）が開催されます
ボランティアグループ「カリーニョ」（湖南省）の取り組み
 ～外国籍の子どもたちと社会の懸け橋を～

「カリーニョ」（ポルトガル語で「優しさ・愛情」の意味）の概要・活動の紹介

青木義道さんがブラジル留学（大学時代）で体験した、言葉の理解や外国で生活することの大変さ・助けてくれた周りの人たちの優しさへの恩返しへの思いが、活動の原点です。

高橋ファビオさん（代表）ほか教え子・地域のボランティア・大学生らとともに2016年11月、外国籍児童・生徒保護者支援をめざして立ち上げ、ポルトガル語講座、スペイン語講座、日本語支援、小中学校でおこなう人権学習や地区懇談会等での教育啓発、文化交流活動などに取り組まれています。



●「カリーニョ」に集う思いを、聞かせてください。

- ・「子どもたちの良い将来への願い」です。今は、子育てや仕事・人権学習会の活動などで忙しく、思いどおりに活動ができていませんが、いろんなことにチャレンジできていて、世界が広がっています。この活動に出会えたことが本当にうれしいです。
- ・これからの世の中の将来像を思い浮かべると、言語をとおした国際理解・多文化共生だと考えています。まずは、海外の国々や外国の人への関心を持ってもらいたいです。困っていることや生活にふれて、外国のことを知ってもらいたいと思っています。
- ・外国にルーツをもつ子どもたちが、日本語を知らない・話さないままでは進路が狭まります。“日本語のカベ”のせいで次にすすめない現状があります。希望を叶えたいとの思いで、サポートをする大人たちの存在を伝えたいです。
- ・言語はコミュニケーションを図る上で大事だと思っています。日本に住んでいる人たちにも、外国の人に話しかけてほしいです。学校や地域でも声をかけあい、あいさつを伝えあう力を育むと、歩み寄れるきっかけになると思います。講座に参加した人からの「学んでおいて良かった」という声が励みになっています。
- ・しんどい思いをしている外国にルーツをもつ生徒をサポートしたいと思っています。また、生徒たちとの生活のなかで教員からポルトガル語で会話する姿を示すことで、周りの関心が高まるとの思いで発信をしています。自分自身も、他の国への興味や文化への関心が広がって、自信につながっています。



ポルトガル講座のようす

●「反差別」への思いについて、聞かせてください。

- ・中学生のとき、きびしい外国人差別に負けず、日本の方とも分け隔てなく接しながら地域で活動をしている方との出会いが人生を変えました。子どもたちが困っていないか、自分自身の経験をふまえてサポートをしたいという思いでこの活動に参加しているモデルになっています。
- ・相手を知ることでと思います。カリーニョでのポルトガル語・スペイン語講座は「身近な国際交流」=コミュニケーションを図るきっかけづくりをねらいに活動しています。外国にルーツをもつ若者たちが母語や文化を伝えることで、日本の人たちが、外国語や異文化を学ぶ機会となっています。そのような取り組みをとおして、お互いのことをさらに知ることもなり、外国にルーツをもつ子どもたちが自信をもつことにもつながっています。

1月末には、石部中学校の人権教育（国際理解学習）や「きらきら学級（松籟会館の子育て支援学級）」の文化体験活動等について話し合いました。ブラジルのお菓子「ブリガデイロ」づくりや「カリーニョ」の活動を伝えるためのグッズづくり、新たに「ベトナム語講座」に取り組むこと等を考えました。

湖南省では今年、甲賀市と共同で滋賀県人権教育研究大会を開催します。（公社）滋賀県人権教育研究会では、県大会開催地を地元の人権文化を発掘・発信し、学びを広げ、県全体に人権尊重の気運を高めていきたいと考えています。



中学校での人権学習のようす